

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	入野谷そば復活夢プロジェクト 収量拡大及びPR 事業
事業主体 (連絡先)	入野谷そば振興会 長谷総合支所 農林建設課 0265-98-3140
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (イ 農業の振興と農山村づくり)
事業タイプ	ハード
総事業費	994,950円 (うち支援金: 663,000円)

事業内容

①収量拡大事業

■実施日: 11月6日に設置完了

■場所: 入野谷そば振興会拠点水施設 (伊那市長谷黒河内 283番2)

■実施内容: 拠点施設に冷蔵庫2台を設置。冷蔵庫はアルインコのLWA-28で30kgの米袋で計56袋が収容可能。

②PR事業

②-1: Webサイト作成

■完了日: 3月12日

■内容: 入野谷在来に特化したWebサイトの作成。発見からいままでのストーリーやそれに関わった人々の紹介、入野谷在来が食べられるお店の紹介などを盛り込む。

②-2: 収穫イベント

■実施日: 10月6日 (刈り取り)

■場所: 長谷柏木圃場

■内容: 高遠の蕎麦店店主に参加してもらい柏木の圃場の一角を手刈りで収穫してもらった。蕎麦店店主3名が参加

②-3: 伊那北高校生徒に向けた入野谷在来のPR

■実施日: 11月12日

■場所: 長谷杉島圃場

■内容:

- ・伊那北高校1年生30名に杉島圃場に来てもらい圃場を見学
- ・入野谷在来の発見から今までのストーリー、将来の目標、現在抱えている課題を説明
- ・入野谷在来と信濃一号の玄蕎麦の実物を見てもらい違いを感じてもらった



【冷蔵庫設置後の様子】



【柏木での収穫イベント】



【伊那北高校生への説明の様子】

事業効果

①収量拡大事業

31,300平方メートル(うち、委託分:24,300㎡) 収穫高:2,418kg 収穫のうち1,980kgを高遠そば組合に出荷。委託分以外の玄そばは保存分も含めて全て冷蔵庫に保管することが出来た。仮に冷蔵庫がなかった場合、常温で保管する事になり品質の低下から市民に美味しい蕎麦を提供する事ができなかった。懸念点であった保管場所の問題が解消されたことにより、今後の収量拡大に注力することが出来、広く市民に入野谷在来を食べていただく為の足がかりとなった。

②PR事業

- ①蕎麦店店主の作業参加により蕎麦店店主3名、また店主がSNSに掲載したことにより間接的に認知は広まった。
- ②伊那北高校生30名に対してPRをおこなうことができた。
- ③Webページは、構築したばかりのため数値として測れないが月数百~1000PVを見込んでいる。

今後の取り組み

- 一般市民に広く募り、播種や刈り取りなどに参加してもらう
- Webページに今まで関わった人のインタビューを掲載。また、日々の圃場作業の様子やイベント告知も行なっていく。
- 伊那北高校と頻繁に連絡を取り合い、生徒の圃場見学や作業参加を通して入野谷在来のファンになってもらう取り組みを行う

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

【目標・ねらい】

- ・収量の増加により、さらに多くの市民に入野谷在来を食べてもらう
- ・更なる収量増加の足がかりとなる

【自己評価:A】

理由:

- ・収量が前年比480%と大幅に収穫高を増やすことが出来た
- ・収穫した玄そばを迅速に冷蔵保存することが出来、品質を落とすことなく出荷することが出来た。

【目標・ねらい】

- ・入野谷在来の認知度を上げる
- ・地元市民の認知度を上げると同時に県外の人々(特に都市部)の認知度を上げることにより、より多くの人に入野谷在来を食べてもらう。

【自己評価:B】

理由:

- ・Webページ作成の開始が遅れてしまい、県外への認知が出来なかった
 - ・伊那北高校生30名に入野谷在来について知ってもらうことが出来た。
- また、そのうち3名が圃場見学を希望。次につなげる事ができた。